

整形外科

a. 体制

人員としては部長 2 名、副部長 3 名、医院 1 名、レジデント 1 名の 7 名体制であった。内容は、松田康孝部長（脊椎担当）、田村治郎部長（人工関節担当）、麻田義之副部長（上肢、手の外科担当）、西田晴彦副部長（スポーツ整形担当）、太田雅人副部長（脊椎担当）、石井啓介医師（脊椎担当）、正木勇希医師（外傷外科担当）である。若手の医師不足は問題であるが、平成 23 年度よりレジデント 1 名（柴代紗代医師）の増員予定である。

b. 診療実績

外科系診療科の実績としてはもっともわかりやすい手術件数と手術内容を記載する。

整形外科年間手術数

脊椎外科

頚椎 73 例
胸・腰椎 183 例

関節外科

股関節	人工関節	48 例
	人工骨頭	19 例
	その他	5 例
膝関節	人工関節	118 例
	半月板手術	19 例
	腱・靭帯再建術	6 例
	その他	11 例
肩関節	人工関節・人工骨頭	0 例
	その他	14 例
その他の関節		9 例

外傷外科

骨接合術	上肢	45 例
	下肢	55 例
再接着術		0 例
その他の外傷		8 例

手の外科

88 例

腫瘍外科

良性腫瘍	6 例
原発性悪性腫瘍	1 例
転移性悪性腫瘍	1 例

その他の手術

0 例

手術総数

709 例

c. 研究実績

学会発表

1. 麻田義之、上肢における感染症の診断と対策、第 92 回近畿手の外科症例検討会 日整
会教育研修講演、大阪、2010 年 3 月 13 日
2. 麻田義之、十字形骨移植法を用いた舟状骨偽関節手術、第 53 回日本手の外科学会学術

集会、新潟、2010年4月17日

3. 麻田義之、マイクロサージャリーでこんな事ができる、第3回京整会マイクロサージャリー研修会、倉敷、2010年7月23日
4. 麻田義之、末梢神経腫瘍の手術成績、第37回日本マイクロサージャリー学会学術集会、名古屋、2010年11月19日
5. 田村治郎、麻田義之、西田晴彦 岡本 健、杉浦 洋、塚中真佐子、石井啓介、松田康孝、岩本幹生、クロスリンクポリエチレンおよび26mmCoCr 骨頭を用いたK-MAX型HS-3セメントステム人工股関節の臨床成績、第40回日本人工関節学会、沖縄、2010年2月26日
6. 田村治郎、麻田義之、西田晴彦 岡本 健、杉浦洋、塚中真佐子、石井啓介、松田康孝、人工股関節ソケット固定に界面バイオアクティブセメント手技（IBBC）を用いた症例の短期成績、第5回超長期耐用をめざしたインプラントと骨との固着をかたる会、大阪、2010年3月20日
7. 田村治郎、ケルブール型プレートを用いて臼蓋側骨欠損再建を行った人工股関節置換術の治療成績、第40回日本股関節学会学術集会、京都、2010年10月1日
8. 田村治郎、麻田義之、西田晴彦 太田雅人、石井啓介、正木勇希、松田康孝、人工股関節ソケット固定に界面バイオアクティブセメント手技を用いた症例の通常手技との短期比較成績、第115回中部日本整形外科災害外科学術集会、大阪、2010年10月8日
9. 石井啓介、胸椎の癒合椎により遅発性胸髄症を生じた1例、第114回中部日本整形外科災害外科学会、名古屋、2010.4.9
10. 西田晴彦、田村治郎、麻田義之、太田雅人、正木勇希、松田康孝。ロッキングを伴った肩関節脱臼の1例、第114回中部整形外科災害外科学会、名古屋、2010年4月9日
11. 杉浦 洋、松田康孝、硬膜外リポマトーシスが原因と考えられた腰部脊柱管狭窄症の1例、第38回大阪整形外科症例検討会、大阪、2010年1月23日
12. 塚中真佐子、松田康孝、変形性膝関節症に対するTKA後疼痛の持続と膝蓋骨低位を来した1例、第38回大阪整形外科症例検討会、大阪、2010年1月23日
13. 正木勇希、松田康孝、軽微な外傷で発生した腰椎破裂骨折の1例、第39回大阪整形外科症例検討会、大阪、2010年7月31日

論文発表

1. 田村治郎、セメント固定K-MAX HS-3 テーパーステムの従来型との臨床成績の比較検討、36、287-288、Hip Joint、2010
2. 田村治郎、麻田義之、西田晴彦、岡本 健、杉浦 洋、塚中真佐子、石井啓介、松田康孝、岩本幹生、クロスリンクポリエチレンおよび26mmCoCr 骨頭を用いたK-MAX型HS-3セメントステム人工股関節の臨床成績、日本人工関節学会誌、40、540-541、2010

3. 石井啓介、胸椎の癒合椎により遅発性胸髄症を生じた1例、中部日本整形外科災害外科学会雑誌、53、1215-1216、2010
4. 西田晴彦、石井啓介、塚中真佐子、田村治郎、麻田義之、松田康孝、ロッキングを伴った肩関節脱臼の1例、中部整形外科災害外科学会雑誌、53、1125～1126 2010
5. Masato Ota, Masashi Neo, Shunsuke Fujibayashi, Mitsuru Takemoto, and Takashi Nakamura, Advantages of the Paraspinal Muscle Splitting Approach in Comparison With Conventional Midline Approach for S1 Pedicle Screw Placement, SPINE, 35, November11, E452-E457, 2010